

抗菌：可視光の性能判定基準案

光触媒工業会に所属する会員（以下会員）は、可視光環境下において抗菌機能を持つ光触媒加工製品（以下製品という）の認証を受けるにあたり、所定の試験機関にて JIS に基づいた評価試験を実施し、下記の性能判定基準を満足しなければならない。

併せて、会員は効果の持続性及び安全性に関するデータを取得し、開示できる状況を維持しなければならない。

①抗菌：可視光 性能評価試験方法

抗菌：可視光のデータを取得するにあたり、以下の試験法にて実施すること。
 なお、試験実施機関は、当事者間の同意においてでも試験内容を変更してはならない。
 ただし、光照射による効果の追加試験を行う場合は、試験条件の変更を可とする。

・ JIS R 1752 ファインセラミックスー可視光応答形光触媒抗菌加工製品の抗菌性試験方法・
 抗菌効果

②抗菌：可視光 性能評価試験機関

認証申請に必要な JIS 評価試験を実施できる機関は、NITE 技能試験を経て、JNLA に登録された機関のみとする。

ただし、光触媒工業会が推奨した試験機関を JIS 評価試験を実施可能な機関とすることができる。

③抗菌：可視光 性能判定基準

製品認証を受けるためには、初期性能として下記①および②をともに満たすことを必要とする。なお、可視光応答形ハイブリッド光触媒抗菌加工製品において、可視光が当たらない環境における製品認証を受ける場合は、③を満たすことを必要とする。

①抗菌活性値 $R_{F-I} = \log(U_{F-I}/T_{F-I}) \geq 2.0$

R_{F-I} ：照度条件 F および I での抗菌活性値

F：試験で用いたシャープカットフィルタの種類 (Type-B)

I：試験で用いた照度 (lx) 本製品認証のための試験では、500 lx とする。

U_{F-I} ：無加工×光照射（照度条件 F-I）での生菌数の平均値(個)

T_{F-I} ：光触媒加工×光照射（照度条件 F-I）での生菌数の平均値(個)

抗菌活性値の評価は光照射時間 8 時間で行う。なお、JIS R 1752 の規定に従い、4 時間まで短くしてよい。

②光照射による効果 $\Delta R = \log(U_{F-I}/T_{F-I}) - \log(U_D/T_D) \geq 0.3$

ΔR ：光照射による効果

U_D : 無加工×暗所保管での生菌数の平均値 (個)

T_D : 光触媒加工×暗所保管での生菌数の平均値 (個)

ただし、光照射による効果 ΔR は、 T_D : 光触媒加工×暗所の値が 100 個未満の場合に、照度 3000 lx 以下の条件で、光照射時間を短くするか、接種用菌液の有機物を多くするか、あるいはそのいずれも変更した方法で追加試験を行って ΔR を算出してもよい。

③光があたらない環境での効果 $R=(U_t-U_D)-(A_t-U_D) \geq 2.0$

U_D : 無加工の接種直後の生菌数の対数値の平均値 (個)

U_t : 無加工の 24 時間後の生菌数の対数値の平均値 (個)

A_t : 抗菌加工の 24 時間後の生菌数の対数値の平均値 (個)

④抗菌：可視光 効果の持続性

効果持続性に関するデータ(促進試験、曝露試験)を取得し、消費者等へ開示できる状況を維持すること。会員が実施した促進試験後に、J I S 試験を実施し、性能判定基準を満足すること。

⑤抗菌：可視光 安全性

製品認証を受けるためには、製品を使用した安全性試験、または、構成原料の MSDS などから安全性を評価し、下記の安全性基準を満足すること。

●必須試験項目

(1)経口急性毒性： $LD_{50} \geq 2,000\text{mg/kg}$ または、GHS 分類 区分外

(2)皮膚一次刺激性試験： 刺激無し、または、弱い刺激性 または、GHS 分類 区分外

(3)変異原性試験： 突然変異誘起性が陰性であること または、GHS 分類 区分外
皮膚に長時間直接接触する使用が常態として考えられる製品あるいは食品と接触する可能性のある製品は、更に

(4)皮膚感作性試験： 陰性であること または、GHS 分類 区分外 の追加確認が必要

会員は安全性に関するデータ取得に努め、消費者等へ開示できる状況を維持すること。

補足事項：

・本性能判定基準に記載された光触媒製品は、光触媒が塗布、加工された最終製品をさす。

・光触媒製品への表示方法、内容については、規格運営委員会が定める事項による。

以上